

令和二年度 滋賀県立草津東高等学校普通科 特色選抜 小論文 問題

受検番号

【注意】

- ・ 問題用紙、解答用紙、下書き用紙の三枚とも受検番号を算用数字で記入しなさい。
- ・ 漢字は楷書、仮名遣いは現代仮名遣いで書きなさい。
- ・ 問の答えは、原稿用紙の正しい使い方に従って書きなさい。（名前は書かないこと。）

次の文章は、評論家の坂東眞理子ばんどうまりこさんが、「あいまいさが許される社会、許されない社会」について述べた文章の一部です。これを読んで後の問いに答えなさい。

微妙であいまいな言葉から相手の気分を感じ取るのは、日本社会に生きるうえでは大切な教養ともいえます。近年ではそれができない人を「空気が読めない」と呼んだりしますが、「空気」という表現は日本語のあいまいさをよくあらわしていると思います。

（中略）

共有するものが少ない人、バックグラウンドが異なる人との会話では、あいまいな言葉でなんとなく気持ちを伝え合うことは難しいものです。むしろ明確な、クリアな言葉を使ったほうが、誤解が少なく、コミュニケーションが円滑になります。

そのいい例が、アメリカ人のコミュニケーションです。

さまざまなバックグラウンドの人々が集まっているアメリカ社会では、相手が自分の気持ちを読み取ってくれることを期待してられません。そこで、誤解のないように、はっきりとものを言うことが社会のルールになっています。また、言葉をつくして説明しようとするので言葉数も多くなります。

そんなアメリカに比べればヨーロッパは表現がやや複雑になっていることが多いというように、国により文化により、コミュニケーションの形は異なってきます。

あいまいで微妙な表現を楽しむ社会と、はっきりとものを言う社会とを比較して、どちらが良い・悪いなどというのは、あまり意味がありません。社会の成り立ちに合った言葉の使い方が行なわれている、ということです。内輪うちわの人たちとあまり言葉を使わず心を通わせる文化と、いろんな背景を持つ人が言葉を尽くして理解しようという文化の両方が併存しているのが現在の世界です。

私自身はあいまいな日本語にも、すばらしい面がたくさんあると思います。ものごとを明確に伝えることだけが、コミュニケーションの形のすべてではありません。

私もどうしても妥協できないこと、あいまいにできない分野では（たとえば差別、暴力など）、明確に賛成・反対の意見が言えますが、それほど詳しくない分野、どうでもいい分野がかなりたくさんあります。そうした分野では、イエス・ノーをはっきり言えないし、言う必要も感じません。

本当は常に白黒と言いつてるより、あいまいにしていたほうがずっと無用な対立や摩擦を減らし、人の意見をあたたく包みます。しかしそればかりでは、ずるい、あいまいだと言われます。また、あいまいに逃げてしまうのでは、自分の意見や立場を明確に表現し、それに責任をとるという美学とは一致しません。

あいまいな言葉で、相手をやさしく包み込むコミュニケーションの形も、日本人として大切にしていきたいものです。その一方で、日本語のあいまいな表現が誤解のもとになることを忘れてはいけないとも思います。

（坂東眞理子ばんどうまりこ『美しい日本語のすすめ』による。）

（注）バックグラウンドにある個人の考え方を形成する基となる環境のこと。

クリアははっきりとした、という意。

問 筆者は傍線部のように述べているが、言葉を用いて望ましいコミュニケーションをとるには、どのようなことを心がけるとよいか。あなた自身の考えを述べなさい。ただし、次の条件に従うこと。

条件

- （1）本文から読み取れる「日本語のあいまいな表現」の、長所もしくは短所に関連したあなたの経験を述べること。
- （2）あなたの考える「望ましいコミュニケーションのあり方」を明らかにすること。
- （3）二百四十字以上三百字以内で述べること。